

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良教育大学附属中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒630-8113

奈良市法蓮町2058-2

E-mail icelos-yujiro`nara-edu.ac.jp

Website http://jhs.nara-edu.ac.jp/index.html

幼児児童生徒数 男子 238名 女子 233名 合計 471名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ESDの理念に基づく学校づくり」を研究テーマに掲げ、D—ESDの当初より、ユネスコスクール活動の先駆的实践を続けてきた。その方法は、全ての教育活動を有機的につなぐ「ホールスクールアプローチ」を基本に、全教科・領域にわたっている。ここではその中の主な取り組みについて記述する。

① 人権・平和に係わる教育

20数年前の一人の生徒の発案から、生徒会が取り組み始めた「平和のつどい」は、本校ESDの中心的な学習活動として、生徒主体で進められてきた。

本年度は、各学年が1学期に実施した宿泊学習(1年＝野外活動 2年＝答志島臨海実習 3年＝沖縄修学旅行)の学びが、「平和」とどのように関わっているのかについて、学年ごとに検証しながら、学年発表会を経て、全校での集いとなった。学年事の発表の後、3年生は自分たちで創りあげた「平和宣言」を読み上げた。その後、縦割りでグループごとにふり返りの時間を設け、それぞれの学びの相互理解を図った。

② 地域の伝統文化（世界遺産）に係わる教育

当校では伝統的に、3年間で5回の「奈良巡り」を通して、奈良の世界遺産について学ぶ学習を実施している。身近な世界遺産について学ぶだけでなく、「世界遺産を通しての学習」についてもねらいとし、世界遺産から地域の未来について考えたり、地域の方とともに学び合う学習も行っている。

③ 各教科に係わる学習

各教科でも、ESDに係わる学習が日常的に行われている。例えば家庭科の食育やジェンダーの平等、美術・音楽の民族文化についての学習など、ESDカレンダーに基づいた学習が展開されている。このような、教科をベースとしながら、各学年の総合的な学習へとつないでいくのが当校ESDの学びの基本となっており、その一端を毎年教育研究会で授業公開している。

④ グローバルシチズンシップ育成のための道徳授業の研究

ー昨年より、グローバルシチズンシップ育成のための道徳授業のあり方について実践研究を継続し、3年間の系統的カリキュラムの作成に取り組んでいる。本年度は3年生で「難民」についての授業づくりに取り組み、授業公開を行った。



① の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他 ()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

全教科・つなぐホールスクールアプローチに基づいて、各教科で獲得した認識や技能を、各学年の総合的な学習の時間で構造化し理解を深めるとともに、行動化している。また ESD の求める価値を獲得していくための時間として道徳の時間を活用している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

※チェック事項 1-4 に対応

ホールスクールアプローチを具現化するための「ESDカレンダー」に基づいて計画的・系統的に実践を継続している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、教育研究会を実施し、教育内容・方法を世に問うことによって、次年度の教育活動に生かすよう取り組んでいる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

教科内、あるいは学年、学校全体で学習後、あるいは活動後に評価している。特に一昨年からはポートフォリオなどを活用し、生徒のナラティブ変容を追いながら、よりの確な評価活動となるよう取り組んでいる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

※チェック事項 2-3 に対応

奈良 ASP ネットワークの一員として、ネットワークの活動(特に夏休みの課外活動)に参加している。また、大学の主催するコンソーシアムの企画に教員が参加している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール間の交流はないが、韓国の中学校と毎年相互訪問し、学校全体で交流活動をしている。(本年度は情勢悪化のため日本からの韓国訪問は実施できなかった)

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

※チェック事項 2-5 に対応

10年以上にわたって ESD に取り組んでおり、特に強調すべき変容はない。むしろ、これまでの ESD の量的拡大から ESD の学びの質的深化にどのように貢献できるかが仮題である。

(3) 平成 30 年度の活動計画

例年通り、ESD カレンダーに基づいて、ホールスクールアプローチで取り組んでいく。